

1. 資料調査

1.1 統計資料

1) 建設工事の海外受注実績

日本建設業の国際化は戦後、講和条約に基づく賠償工事や経済協力ベースの海外工事から始まった。しかし、一部商業ベースの国際入札もあったが、いずれも微々たるもので、建設業は典型的な内需依存型産業であった。

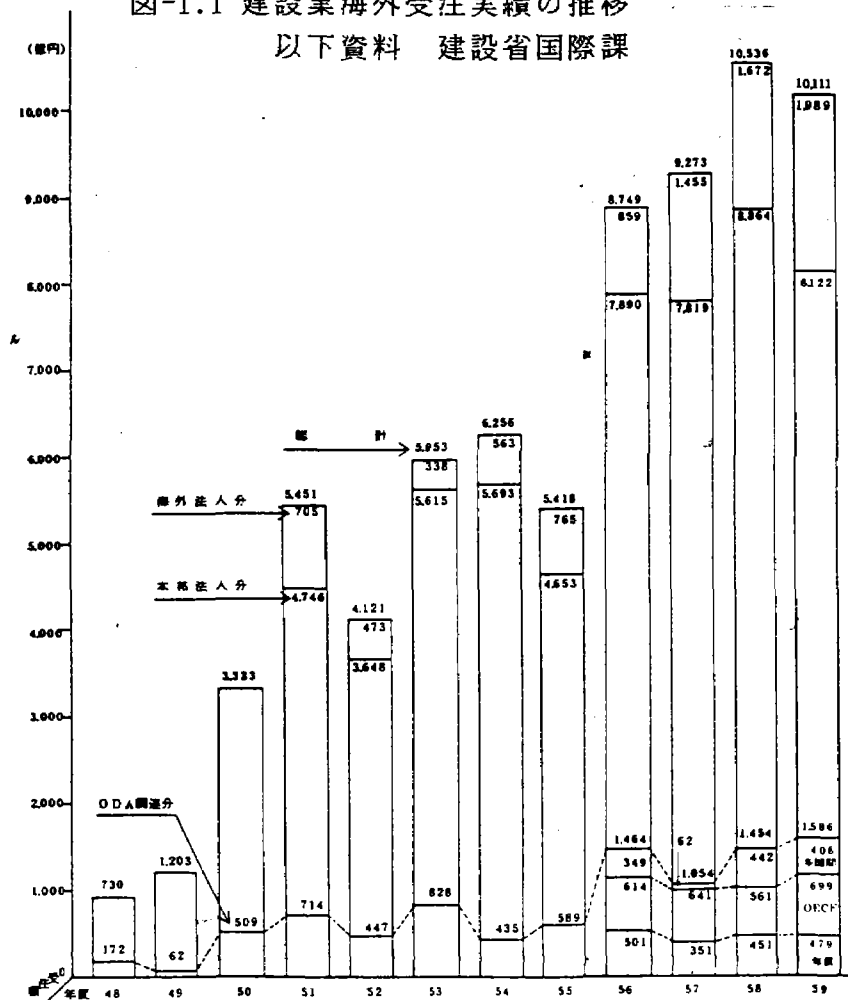
本格的な海外進出が始まったのは、昭和48年の第一次オイルショック以降である。GNPの20%前後を占めて来た国内建設市場は、オイルショックを契機に、工事量の減少、利益率の低下、住宅建設の不振、財政再建に伴う公共投資抑制による大型公共工事の減少に直面した。建設業は厳しい市場環境を打開するため、本格的な国際市場への新規参入に踏切った。

一方、高度経済成長の減速に伴い、日本の産業構造も国際化し、自動車、家電、機械メーカー、プラントメーカー等の資源多消費型産業の工場、重化学プラントの海外立地、サービス産業の海外進出が活発になったことも建設業の海外進出に拍車をかけた。

現在では、日本の建設会社の国際化は急ピッチで拡大している。

図-1.1 建設業海外受注実績の推移

以下資料 建設省国際課



1. 建設工事請負及び施工に際しての技術指導を含む。
2. 本邦法人分と海外法人分（昭和51年度分から調査開始）との間に重複はない。
3. 海外法人は、本邦側の出資比率の如何を問わない。
4. ODA関連分は、本邦法人分と海外法人分を合わせた総計に対する数字。我が国の無償資金協力、円借款の他に、我が国が拠出金を出している国際援助機関の融資に係るものを含む。

図1.1は、日本の建設業の海外受注実績の10年間の推移を示したものである。昭和48年には、730億円にすぎなかった海外受注額は、50年度には4.75倍の3333億円に急増、その後も着実に伸び、54年に6256億円と倍増している。更に、58、59年度には念願の1兆円を達成し、本格的な海外進出の段階を迎えた。

地域別では、図1.2にみるとおり、東南アジア、中近東で全体の80-90%を占め、市場のウェートがここ数年で、中東市場から東南アジア市場へとシフトしていることがわかる。中東市場は、昭和54年の55%をピークに、世界的な石油需要のだぶつきと、それに伴う原油価格低下による逆オイルショック、イラン・イラク戦争の長期化、開発投資の一巡等のマイナス要因により、59年度には10%まで減少している。

一方、東南アジアでは、マレーシア、シンガポール、香港を中心に、拡大基調の建設投資をバックに、昭和54年度の32%から、59年度の54%へと倍増し、59年度はオーストラリア、アメリカ本土、ハワイという先進国市場が伸びその他の項目が従来の10%前後から33%に増加している。

59年度には海外受注実績は58年度に及ばなかったが海外法人の工事は順調に増加し過去の最高額を記録している。この内、アメリカ本土が53%となっている。

図-1.2 海外建設工事等の地域別受注割合の推移
(本邦法人+海外法人、受注金額による)

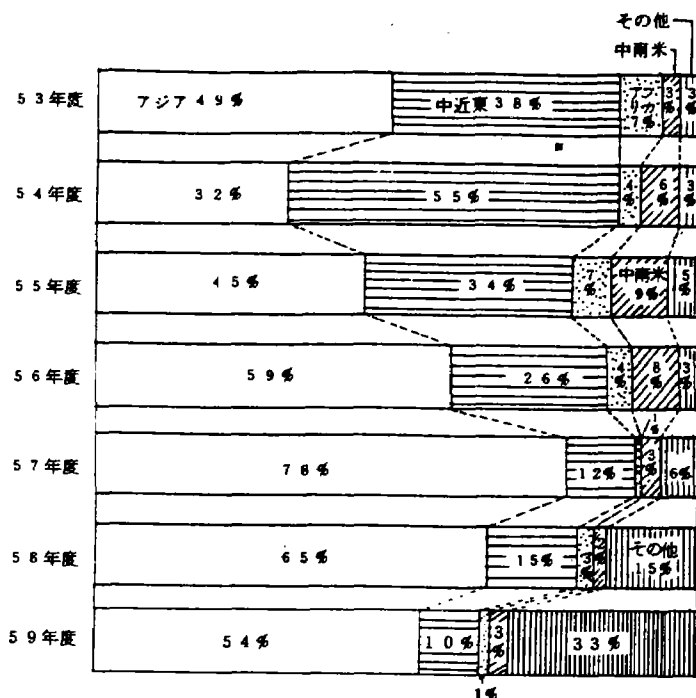


表-1.1 海外建設工事等の受注実績上位10カ国の推移 (本邦法人+海外法人)

(億円)

	57年度		58年度		59年度	
	国名	金額	国名	金額	国名	金額
1	香港	2,447	シンガポール	2,643	アメリカ本土	1,530
2	マレーシア	1,952	マレーシア	1,624	マレーシア	1,407
3	シンガポール	1,291	インドネシア	1,062	シンガポール	1,079
4	サウジアラビア	864	香港	796	オーストラリア	1,074
5	インドネシア	564	アメリカ本土	780	香港	844
6	タイ	301	クウェート	699	タイ	601
7	アメリカ本土	216	オーストラリア	546	中国	467
8	ブルネイ	195	サウジアラビア	437	サウジアラビア	432
9	スリランカ	195	スリランカ	214	ハワイ	337
10	東ドイツ	136	アルジェリア	191	インドネシア	279

海外受注1兆円を達成し、本格的な海外進出の段階に達したことは高く評価されるが、欧米、韓国と比較するとその割合は依然低い。

表1.2のENR誌のデータによれば、世界の59年度上位250社のインストラクターのうち、日本勢は、総受注高で、大成建設の世界第6位を筆頭に、清水建設7位、鹿島建設10位と高い水準にあるにもかかわらず、海外受注高では、熊谷組の20位、鹿島建設39位、大林組50位、清水建設の55位と後退しており、海外受注度が欧米インストラクターと比して低いことがわかる。

個別企業でみても、総受注高に占める海外受注の割合が30-40%を占める企業が数社で来ているが、大半は10-20%である。それに比して83年の米国建設業トップ10社の海外比率を表4でみると、平均で44%、総受注1位のベクトルが57%、ケロッグ・ラストが59%、フォスター・ホイラーやルーマス・クレストのように70%前後を占める企業があることがわかる。国内市場が50兆円前後と大きいものの、海外受注度の高い欧米インストラクターと比較すれば、日本の建設業が海外に進出する余地は十分にある。

近い将来、日本企業の中にも、海外シェアが国内シェアを超える企業も出てくることが十分予測される。

表-1.2 昭和59年度海外受注高

順位	建設会社名	国籍	海外受注高 (百万USドル)
1	ケロッグ・ラスト	米	8,630.0
2	ベクトル・グループ	米	4,905.0
3	ザ・パーソンズ	米	3,010.2
4	現代	韓国	2,490.6
5	ルーマス・クレスト	米	2,300.0
6	ストーン&ウェブスター	米	2,016.6
7	フォスター・ホイラー	米	1,933.0
8	フィリップ・ホルツマン	独	1,931.3
9	サデルミ・コジェビー	伊	1,773.0
10	デヴィ・コーポレーション	英	1,553.4
11	フルマー・コーポレーション	米	1,527.8
12	スナムプロダクティ	米	1,430.0
13	エンカ・コーポレーション	トルコ	1,347.4
14	ジョン・ブラウン	英	1,329.0
15	ブラウン&ルート	米	1,288.7
16	パティニョール	仏	1,101.6
17	ブイグ	仏	1,000.0
18	PCLコンストラクション・グループ	加	947.2
19	イムプレシット	伊	860.0
20	熊谷組	日本	850.2
39	鹿島建設	日本	485.0
50	大林組	日本	359.9
55	清水建設	日本	345.9
71	大成建設	日本	247.0
88	竹中工務店	日本	191.5

表-1.3 昭和59年度総受注高

順位	建設会社名	国籍	総受注高 (百万USドル)
1	ケロッグ・ラスト	米	10,855.0
2	フルマー・コーポレーション	米	8,353.4
3	ベクトル・グループ	米	8,220.0
4	ザ・パーソンズ	米	7,514.7
5	スターンズ・カタリティック	米	4,932.3
6	大成建設	日本	4,213.0
7	清水建設	日本	3,931.7
8	ブラウン&ルート	米	3,883.9
9	三菱重工	日本	3,800.0
10	鹿島建設	日本	3,787.0
11	フィリップ・ホルツマン	独	3,291.3
12	熊谷組	日本	3,227.7
13	ルーマス・クレスト	米	3,200.0
14	大林組	日本	3,122.5
15	現代	韓国	3,016.8
16	竹中工務店	日本	3,011.8
17	ストーン&ウェブスター	米	2,923.3
18	ブイグ	仏	2,700.0
19	フォスター・ホイラー	米	2,413.0
20	レイモンド・インターナショナル	米	2,347.4

(資料) 「ENR」(1985年7月18日号)
"The top 250 international contractors"

表-1.4 昭和58年度米国建設業トップ10社受注額

順位	社名	総受注額 百万 USドル	海外受注額 百万 USドル	海外比率 (%)
1	ベクトル・グループ	13,810.0	7,884.0	57.1
2	ケロッグ・ラスト	8,500.0	5,000.0	58.8
3	ザ・パーソンズ	6,627.7	4,160.7	62.8
4	レイモンド・インターナショナル	3,211.9	321.3	10.0
5	スターンズ・カタリティック	3,118.6	791.2	25.4
6	フォスター・ホイラー	2,980.0	2,103.0	70.6
7	フルマー・コーポレーション	2,605.0	1,193.0	45.8
8	ルーマス・クレスト	2,460.0	1,720.0	69.9
9	エバスコ・セーニセス	2,072.4	54.1	2.6
10	ブラウン&ルート	2,059.4	769.2	37.4
	平均			44.0

(資料) 「ENR」(1984年4月19日号) "The Top 400 Contractors"

2) 建設コンサルタントの海外受注実績

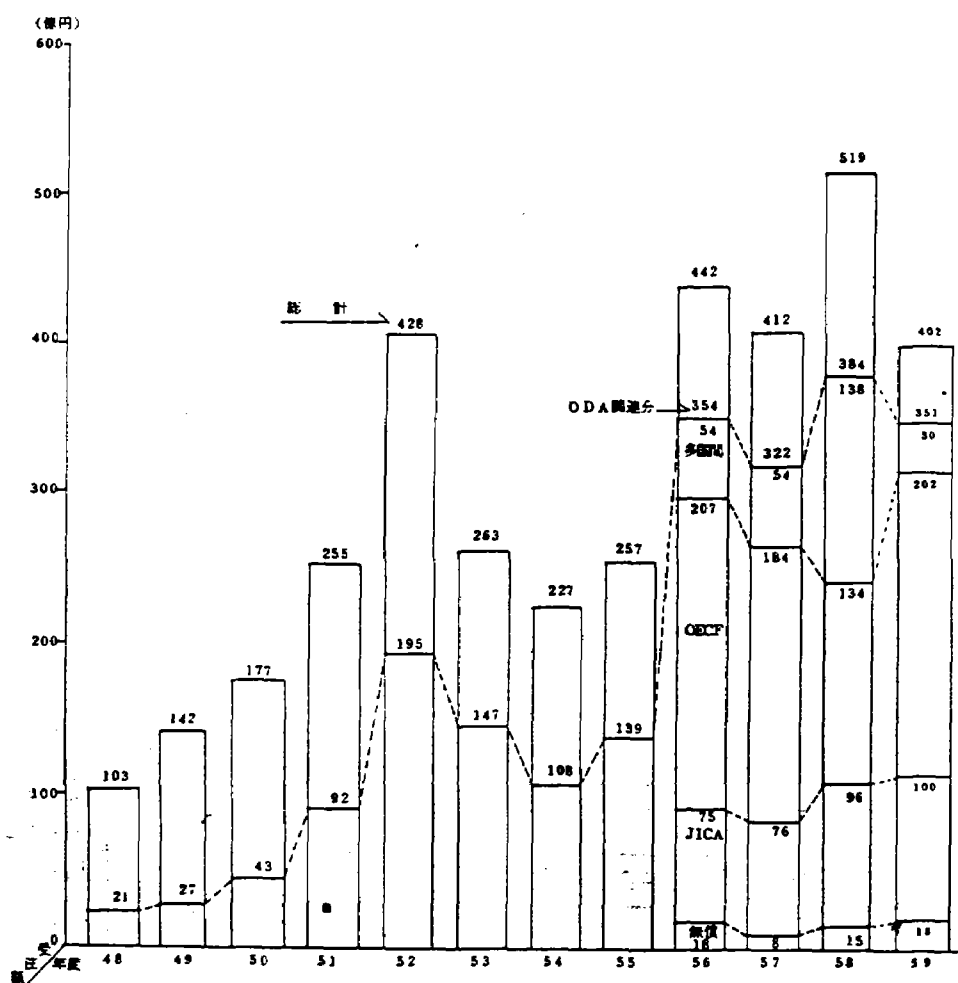
地域別に見た場合、アジア地区に集中しており59年度は80%を占めている。

国別に見た場合、我が国の政府開発援助（ODA）の投入額の大きいインドネシアが断然首位を占め、以下も概ねODAの投入額の大きい国が上位になっている。

ODA関連のうち、実質的には発注先が我が国企業に限定されている無償資金協力・国際協力事業団による技術協力・海外経済協力資金による直接借款が80%を占めている。

図-1.3 建設業コンサルティング等海外受注実績の推移

以下資料 建設省国際課



註 1. 対象は次のとおり。

(1) 下にかかる調査・設計・施工監理

イ 河川、砂防及び海岸 ロ 港湾、空港 ハ 発電土木 ニ 道路
ホ 鉄道 ヘ 上水道、工業用水道 ト 下水道 チ 農業土木
リ 森林土木 ヌ 造園 ル 都市計画、地方計画 リ 地域総合開発計画
フ 地質 カ 土質、基礎 ヨ 鋼構造、コンクリート タ トンネル
レ 施工計画、施工設備 ソ 建設機械 ツ 通信 ネ 建築物

(2) 測量

(3) 地質調査

2. ODA関連分は、我が国の無償資金協力、JICAの開発調査、円借款の他に、我が国が拠出金を出している国際援助機関の融資に係るものを含む。

図-1.4 海外建設コンサルティング業務等の地域別受注割合の推移（受注金額による）

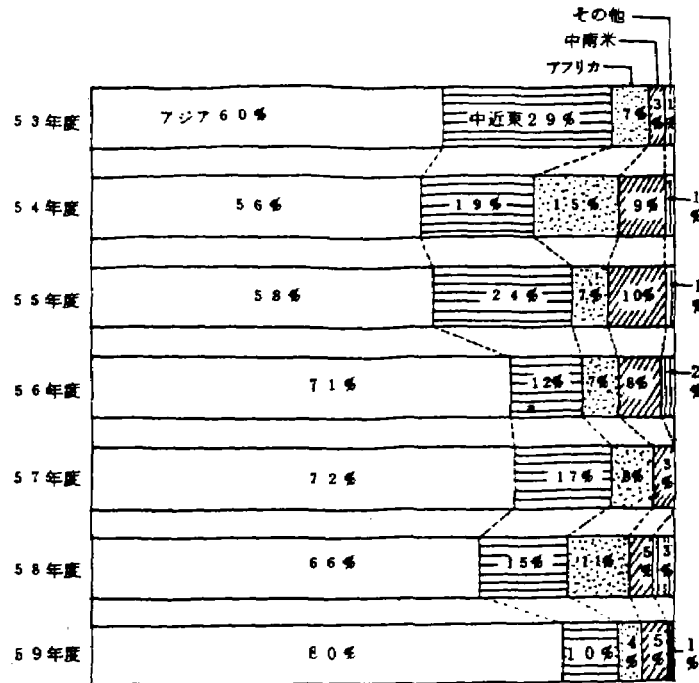


表-1.5 海外建設コンサルティング業務等受注実績上位10カ国の推移
(百万円)

	57年度		58年度		59年度	
	国名	金額	国名	金額	国名	金額
1	インドネシア	13,329	インドネシア	19,350	インドネシア	15,285
2	フィリピン	5,948	クウェート	4,448	タイ	4,155
3	イラク	4,329	マレーシア	3,475	フィリピン	3,927
4	タイ	2,910	フィリピン	2,565	韓国	2,439
5	ネパール	2,418	タイ	2,451	エジプト	2,200
6	マレーシア	2,116	ビルマ	1,846	パキスタン	1,670
7	パキスタン	1,606	ニュージーランド	1,416	バングラデシュ	1,085
8	ケニア	937	ドミニカ	1,282	マレーシア	1,030
9	タンザニア	910	ナイジェリア	1,237	シンガポール	914
10	ヨルダン	815	バングラデシュ	1,231	中国	585

3) 橋梁の海外受注実績

図-1.5は、日本の建設業の海外受注実績の20年間の推移を示したものである。昭和48年までは、1万トンにみたなかった海外受注実績は、52年度には52,990トンと市場最高実績を記録した、その後は2万トン前後を推移したものの59年度には38,949トンと史上第2位を記録している。

表-1.7は日本橋梁建設協会発刊の橋梁年鑑から抜粋し、表-1.8-表1.10はこれを元に編集したものである、表-1.6と表-1.8は双方とも年度ごとの実績であるが表-1.6が受注時の表-1.8が完工時を示すため数字が食い違っている。

地域別では、過去12年の実績表-1.9によると、アメリカ本土が59%を占めており、以下に東南アジア、中近東がなっている。

会社別実績表-1.10をみると、橋梁専門メカの川田工業が42%と他を引き離しており、以下に造船メカがなっている。

表-1.6 橋梁受注実績

資料 日本橋梁建設協会

図-1.5 鋼橋受注量の推移

資料 日本橋梁建設協会

(単位: トン)

内 外 品 目 年 度	国 内				海 外	ロック シェッド スノー	合 計
	道路橋	鉄道橋	その他 橋	計			
昭和39年	165 523	28 495	8 641	202 659	292		202 951
40	265 903	40 373	7 431	313 707	846		314 553
41	254 238	43 328	11 916	309 482	12 935		322 417
42	256 021	73 770	10 135	339 926	2 010		341 936
43	394 674	66 001	11 088	417 763	851		472 614
44	316 515	54 594	22 629	393 738	4 766		398 504
45	410 595	57 581	15 152	483 328	2 442		485 770
46	512 894	54 568	32 658	600 120	14 738		614 858
47	482 771	72 301	28 693	583 765	4 900		588 665
48	420 074	84 506	16 072	520 652	12 063		532 715
49	343 519	32 851	—	376 370	4 367		380 737
50	313 510	37 002	661	351 173	13 464		364 637
51	323 776	39 118	18 522	381 416	22 344		403 760
52	383 069	39 577	32 788	455 434	52 990		508 424
53	461 578	73 866	8 856	544 300	20 450		564 750
54	406 127	102 244	14 367	522 738	20 013		542 751
55	462 207	45 816	38 602	546 625	3 934		550 559
56	472 106	63 301	13 788	549 195	26 476	2 792	578 463
57	476 229	66 050	15 043	577 322	18 397	3 698	579 417
58	538 724	75 210	8 299	622 233	9 139	2 179	633 551
59	501, 216	40 660	3 950	545 826	38 949	2 164	586 939

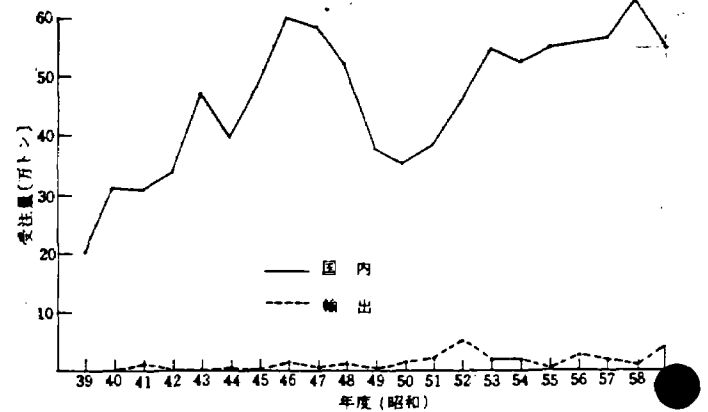


表-1.7 海外橋梁完工資料（昭和47年-59年） 資料 日本橋梁建設協会 橋梁年鑑

橋 名	輸出国	橋長(M)	鋼重(T)	形 式	施 工
47年度 ギルバート橋 フィリピントラス ニューテメロ橋 イラン橋梁	合計件数 = 4 フィリピン フィリピン マレーシア イラン	重量 = 742 74 274 295	5,822 3,052 259 2,167 344	3径間連続鈑桁 単純トラス 2径間連続箱桁 単純合成鈑桁	川田 駒井 栗本 横河
48年度 アンカレッヂ橋 キャットウォーク アバイ橋・ゴタキブル橋 Forty Mile橋 Yukon River Bridge 香港フライオーバー ラガンギラング橋 サンファニコ橋 ブロードウェイ橋	合計件数 = 9 アメリカ イラン マレーシア アメリカ アメリカ 香港 フィリピン フィリピン アメリカ	重量 = 781 577 129 165 700 305 442 2,162 130	16,841 4,200 508 194 350 4,480 469 798 4,882 960	連続立体ラーメン橋 単純合成鈑桁 単純合成鈑桁 3径間連続箱桁 6径間連続箱桁 単純鈑桁 単純トラス 3径間連続トラス アーチ橋	川田 ト 駒井 三井 三井・松尾 川田 三菱 NKK・宮地 川田
49年度 セントアルマクムブリッ ドバイクリーク2号橋 マガビット吊橋 キャップテンモアクリク橋	合計件数 = 4 ドバイ酋長国 ドバイ酋長国 フィリピン アメリカ	重量 = 152 115 257 91	2,743 414 865 1,221 243	単純合成鈑桁 3径間連続逆底型箱桁 吊橋 斜張橋	高田 高田 川田 宮地
50年度 チェナ・リバー橋 ミズリ・リバー橋 アーカンソー橋梁 コロンビア川鉄道橋 アルジェ対向パイライン橋 ゴールデンホーン橋 サクラメント橋 ヒューストンハイウェイ インターチェンジ橋 ガーデンパレイ橋 アリエスカパイライン橋梁 シャルジャー橋 カン橋	合計件数 = 13 アメリカ アメリカ アメリカ アメリカ インドネシア トルコ アメリカ アメリカ フィリピン アメリカ アメリカ ドバイ酋長国 ドバイ酋長国	重量 = 161 568 4,693 121 145 822 207 903 23 172 215 124 82	31,314 987 2,903 13,452 1,850 321 7,154 1,062 1,661 389 550 236 437 312	3径間連続鈑桁 単純トラス 4径間連続鈑桁 単純トラス（可動橋） 単純トラス 連続鈑桁 連続合成鈑桁 単純鈑桁 単純合成H桁 単純トラス 単純鈑桁 3径間連続鈑桁 2径間連続鈑桁	川田 川田 川田 ト ト IHI IHI IHI 川鉄構 日塔 NKK 宮地 宮地

橋 名	輸出国	橋長 (M)	鋼重 (T)	形 式	施 工
5 1 年度	合計件数 = 8	重量 =	9,166		
マルタ 1 3 0 橋 梁	アメリカ	1,420	1,945	単純箱桁	川田
マルタ 1 2 5 橋 梁	アメリカ	704	1,152	単純箱桁	川田
ピータークリーク	アメリカ	105	143	2径間連続鉄桁	トビ
I-IG-229 (66)	アメリカ	443	1,570	連続曲線鉄桁	IHI
I-IG-229 (77)	アメリカ	572	1,320	連続曲線鉄桁	IHI
ジャラヒ橋	イラン	88	475	単純非合成鉄桁	トビ・NKK
バンナバンパコン橋	タイ	431	1,414	単純鉄桁 (可動橋)	NKK
バズラ旋回橋	イラク	91	1,147	2径間連続鋼床版鉄桁	横河
5 2 年度	合計件数 = 11	重量 =	19,839		
マルタ 5 6 0 橋 梁	アメリカ	788	1,192	単純箱桁	川田
マルタ 5 6 5 橋 梁	アメリカ	384	532	単純箱桁	川田
ウィスコンシン橋 梁	アメリカ	2,433	1,368	下路タイトアーチ橋	川田
アーカンソー橋 梁その 3	アメリカ	1,060	588	4径間連続鉄桁	川田
ミネソタ橋 梁	アメリカ	110	1,609	下路タイトアーチ橋	川田
クウェート橋 梁	クウェート	1,964	10,167	単純合成鉄桁	川田
Snake River Bridge	アメリカ	442	1,850	連続箱桁	IHI
ファイアリバー橋	アメリカ	96	1,400	単純鉄桁	三菱
ポップスフェリー橋	アメリカ	89	490	単純鉄桁	三菱
パレパレパラン橋	インドネシア	90	120	単純合成鉄桁	宮地
アラール橋 梁	イラン	250	523	5径間連続鉄桁	横河
5 3 年度	合計件数 = 5	重量 =	4,687		
ハミルトン橋	アメリカ	412	2,679	連続鉄桁	三菱
タンガ橋	インドネシア	52	86	単純合成鉄桁	日車
バスラ旋回橋 (道路橋)	イラク	92	1,046	連続鉄桁 (可動橋)	横河
ナムルサハン橋	インドネシア	41	64	単純合成鉄桁	日車
バスラ旋回橋 (鉄道橋)	イラク	75	812	連続ゲルバー・トラス	横河
5 4 年度該当物件なし					
5 5 年度	合計件数 = 5	重量 =	11,962		
アーカンソー川橋	アメリカ	1,277	11,671	連続鉄桁	川田
南スマトラ橋 梁	インドネシア	63	154	下路トラス	横河
タイ国鉄道橋 (その 1)	タイ	32	55	下路トラス	横河
タイ国鉄道橋 (その 2)	タイ	30	36	上路トラス	横河
タイ国鉄道橋 (その 3)	タイ	31	46	下路トラス	横河

橋 名	輸出国	橋長(M)	鋼重(T)	形 式	施工
56年度 アローヘッド橋 ビロミリバー橋	合計件数 = 2 アメリカ パプアニューギニア	重量 = 155 47	2,551 2,474 77	アーチ橋 単純トラス	川田 日橋
57年度 マタディー橋 コロンビア川鉄道橋 ミシシッピ・リバーブリッジ(ル・リッケ) アメリカ	合計件数 = 3 ザイル共和国 アメリカ	重量 = 722 231 837	31,747 13,219 1,230 17,298	吊橋 単純下路トラス 斜張橋	IHI三菱川重JV 横河 IHI
58年度 14ラマダン橋 カピウラ橋 アウム橋 スリマールク可動橋 イーストグラント・アウ・ニューオーバーヘッド橋 アメリカ	合計件数 = 5 イラク パプアニューギニア パプアニューギニア アメリカ	重量 = 405 116 50 78 179	6,227 4,300 304 75 301 1,247	単純合成斜張橋 ランガー橋 下路トラス 下路トラス式跳開橋 5径間連続合成箱桁	住重 日橋 日橋 IHI 三菱
59年度 St.Croix River橋 Pasig River橋 インドネシア国鉄道局 Belaga橋 Tutoh橋 Patah橋	合計件数 = 6 アメリカ フィリピン インドネシア マレーシア マレーシア マレーシア	重量 = 207 138 451 62 61 62	3,562 1,727 562 912 139 120 102	下路トラス・ヒール桁橋 合成鉄桁 上路トラス 単純鉄桁 単純鉄桁 単純鉄桁	川田 川田 日車 日塔 日塔 日塔

表-1.8 年度別完工資料

年度	件数	鋼重(T)
47	4	5,822
48	9	16,841
49	4	2,743
50	13	31,314
51	8	9,166
52	11	19,839
53	5	4,687
54	0	0
55	5	11,962
56	2	2,551
57	3	31,747
58	5	6,227
59	6	3,562
合計	75	146,461

表-1.9 輸出国別海外橋梁完工資料 (昭和47年-59年)

国 名	件数	重 量	比率
アメリカ	34	86,720	59.2
ザイル共和国	1	13,219	9.0
フィリピン	7	11,163	7.6
クウェート	1	10,167	6.9
イラク	4	7,305	5.0
トルコ	1	7,154	4.9
マレーシア	5	2,722	1.9
ドバイ酋長国	4	2,028	1.4
イラン	4	1,850	1.3
タイ	4	1,551	1.1
インドネシア	6	1,657	1.1
香港	1	469	0.3
パプアニューギニア	3	456	0.3
合 計	75	146,461	100.0

表-1.10 施工会社別海外橋梁完工資料（昭和47年-59年）

12

会社名	件数	重 量	比率
川田	20	62,231	42.5
IHI	8.4	36,622.4	25.0
三菱	5.3	11,020.3	7.5
横河	10	5,393	3.7
川重	0.3	4,406.3	3.0
NKK	3	4,328.5	3.0
住重	1	4,300	2.9
宮地	4.5	3,553	2.4
比	4.5	3,059.5	2.1
三井	1.5	2,590	1.8
松尾	0.5	2,240	1.5
栗本	1	2,167	1.5
高田	2	1,279	0.9
日車	3	1,062	0.7
日塔	1	550	0.4
日橋	3	456	0.3
駒井	2	453	0.3
川鉄構	1	389	0.3
日塔	3	361	0.2
合 計	75	146,461	100.0

4) 参考資料

①昭和59年度海外建設工事等受注実績（昭和60年度調査実施）昭和60年7月

千代田区霞ヶ関2-1-3 建設省第3合同庁舎 建設省国際課 TEL 03-581-0665
 ☆毎年7月に発刊。建設業、エンジニアリング業について本邦法人、海外法人に分け過去の実績と共に国別に集計されいている。

②昭和59年度海外建設受注実績（S.59.4.1-S.60.3.31）

中央区八丁堀1-9-9 東京建物第3八重洲ビル （社）海外建設協会 TEL 03-553-1631
 ☆毎年5月に発刊。工事請負、技術指導について本邦法人、海外法人に分け調査期間の実績について国別に集計されいている。また、個別の工事について業者名、受注金額も記載されている。建設省とは集計法が異なるため本稿は建設省を用いた。

③橋梁年鑑 昭和54年版（昭和52年完工）－昭和60年版（昭和58年完工）

中央区銀座2-2-18 鉄骨橋梁会館 （社）日本橋梁建設協会 TEL 03-561-5225・5452
 ☆毎年9月に発刊。国内、国外についての橋梁受注実績と、工事名、業者名、受注重量も記載されている。

④海外鉄鋼統計 四半期報

TEL 03-279-3611

千代田区大手町1-9-4 経団連会館 （社）日本鉄鋼連盟 海外統計委員会
 ☆毎年3.6.9.12月に発刊。国際的な視点に立ち、世界各国の長期的な鉄鋼石、鉄鋼生産、鉄鋼輸出入の推移について詳細の統計が採られている。

⑤港区芝公園3-5-8 機械振興会館4F 日本機械輸出組合 重機械課 TEL 03-431-9808

☆鉄構構造物についての情報は収集しているが刊行部はない。

1.2 海外への視察調査団とその概要（主として鋼橋）

海外橋梁調査団実績表（1973年（S48）～1984年（S59））

調査年月	調査団および団長名	調査目的	主催団体	参加人数
1973 3/10～3/26	フレモント橋架設視察団 コーディネーター：毛利哲三（松尾橋梁） 幹事：伊藤鉄雄（川田工業）	1. フレモント橋架設視察	長大橋技術研究会	22
1973 9/9～9/28	欧州鋼橋調査団 団長：伊藤学（東大教授）	1. IABSE出席 2. ヨーロッパ主要国の 鋼橋工事現場視察	欧州鋼橋調査団	13
1975 5/8～5/24	欧州長大橋の建設技術および 海洋構造物の実情調査団 団長：奥村敏恵 （東大名誉教授）	1. 英国の長大吊橋の調査 2. 仏・西独の斜張橋の調査 3. 海洋構造物調査 （エンクリト、鋼のプラットフォーム）	（社）日本溶接協会 欧州長大橋研究会 事務局：国際産業企画協会	19
1976 7/31～8/14	欧州橋梁技術調査団 団長：山本崇史（自治省）	1. 欧州における橋梁技術の調査（鋼、PC） 2. 欧州における石油貯蔵施設建造技術調査	欧州橋梁技術調査団	32
1977 5/28～6/15	海外橋梁技術調査団 団長：山本淳二 （（財）国土開発技術研究センター調査部）	1. 中近東の橋梁技術の現状調査 2. 欧州の橋梁技術の現状調査	中近東、欧州 橋梁技術調査団土木学会	25
1977 9/3～9/22	長大橋建設技術実情調査団 団長：小西一郎 （京大名誉教授）	1. アルゼンチンの斜張橋（建設中） 2. Humber橋（建設中） Severn橋 3. ライン河の橋梁調査	テクノロジー・トランスファー・インスティテュート （T.T.I）	18
1979 5/28～6/18	第15回海外道路調査団 団長：倉橋天鑑彦 （（財）阪神高速道路管理技術センター）	1. ヨーロッパの道路事情調査	海外道路調査団	31
1979 7/7～7/23	構造物の耐風設計施行に関する 訪米・カナダ調査団 団長：岡内功（中央大教授）	1. 米国の橋梁視察 2. 風工学に関する 第5回国際会議出席 風洞実験施設の見学	構造物の耐風設計 施行調査団 T. T. I	16
1980 8/23～9/7	ヨーロッパにおける橋梁の設計と景観に 関する調査団 団長：田島二郎（埼玉大教授）	1. ヨーロッパの橋梁見学 2. 第11回IABSE出席	T. T. I	18

海外橋梁調査団実績表 (つづき)

調査年月	調査団および団長名	調査目的	主催団体	参加人数
1981 9/5 ~9/19	西ヨーロッパにおける長大橋梁工学に関する調査団 団 長: 小堀為雄 (金沢大教授)	1. IABSE出席 2. 英国々立研究所 フランス鋼構造研究所 3. 西ドイツの橋梁視察	MEDEF研究会	18
1982 9/4 ~9/17	'82 米国橋梁視察団 団 長: 福本 士 (名大教授)	1. IABSE出席 2. 米連邦道路庁訪問 3. 米国橋梁視察	橋建協	38
1982 9/25~10/10	北米における鋼構造新技術に関する調査団 団 長: 西村 昭 (神大教授)	1. 耐候性鋼無塗装橋梁の使用状況 2. 北米の斜張橋の実情 3. 北米のコンサルタント訪問	北米における鋼構造新技術に関する調査団	21
1983 3/15~4/2	オセアニア風工学橋梁調査団 団 長: 伊藤 学 (東大教授)	1. 第6回風工学国際会議に出席 2. 風工学研究施設見学 (大学・研究所) 3. オセアニアの橋梁視察	オセアニア調査団 橋建協	22
1983 5/20~6/4	鋼、コンクリート複合構造物および大規模海洋構造物に関する訪欧調査団 団 長: 前田幸雄 (阪大教授)	1. IABSE出席 (船舶の橋梁及び海洋構造物への衝突) 2. For φ 橋の見学	鋼、コンクリート複合構造物および大規模海洋構造物に関する訪欧調査団	13
1983 11/13~ 11/25	欧州鋼構造物調査団 団 長: 福本秀士 (名大教授)	1. 第3回パリ鋼構造物の安定性に関するシンポジウム出席 2. ヨーロッパ鋼橋視察	欧州鋼構造物調査団 橋建協	18
1984 6/13~6/28	'84 欧州橋梁調査団 団 長: 布施洋一 (本四)	1. ヨーロッパの橋梁の寿命に関する調査 2. 鋼橋の維持補修	橋建協	29
1984 9/1 ~9/15	今日・未来の橋梁技術調査団 団 長: 田島二郎 (埼玉大教授)	1. IABSE 第12回出席 2. 米国吊橋、斜張橋の視察	橋建協 T. T. I	9
1984 10/6 ~ 10/19	米国高速道路の維持管理に関する調査団 団 長: 岡田郁生 (首都高速道路公団)	1. 高速道路の点検 維持管理の調査	(財) 首都高速道路 技術センター	15